

こどもま〜ち



Vol. 2

企画・編集：こどもとまち支援の専門ネットワーク

寒さもますます厳しくなってきましたが、今年も「こどもま〜ち」、スタッフ共々宜しくお願い致します。

昨年は、私の中での事始めがいろいろとあった一年でした。「こどもま〜ち」の創刊号に携わったのはもちろんですが、娘のPTAのお役を引き受けた事などなど、地域と関わる自分。。現在の私の姿を学生の頃の友人が目にしたらおそらく「別人だ」とビックリするのではないのでしょうか。どちらかと言えば、チームプレーは苦手、個で行動していたタイプ。一人旅にも平気で出かけ、気ままな感じを楽しんでいました。

ところが、結婚し、子どもが誕生。アタフタしながら「子育ては一人では出来ない」と痛感。子どもを通して社会とつながることで様々なことを学びました。ママ友をはじめ、学校、子供会、NPOなどの地域活動にもお世話なり、そこから広がる多彩なネットワークで皆さんに助けられているのを実感し、今では「まちと関わり、人とつながること」の面白さを味わっています。

これからも、カマズゆる〜く、細なが〜く、つながっていきたいと思っておりますので、皆さま宜しくお願い致します。



「こどもま〜ち」編集部スタッフ 上野サナエ

地域に愛される保育園

春日井市立外之原保育園

閑静な住宅街と田園風景の広がる大自然に囲まれた園舎から、子どもたちの元気な声が聞こえる「春日井市立外之原保育園」（仲野仁子園長）。設立されたのは昭和33年と由緒ある園ですが、隣接する高蔵寺ニュータウンの住人でも“知る人ぞ知る”といった感が否めないほど、小規模。年少・年中・年長と、3学年あわせても園児数は現在22人。その少人数と自然を活かした保育を園長はじめ保育士は心掛け、実行しています。

全園児が皆顔見知り、保育士も担当クラス以外の子どもたちも把握でき、安心して自己を出せるのか、誰もが「お話好きで人が大好き!」。自由時間や集団遊びの時間などは“大きいお兄ちゃんも小さい女の子”も一緒になって遊び、年少組は自然と年長組の“お兄さん、お姉さん”に憧れを抱き、見よう見まねで作ったブロックのロボットは先生もビックリするほど完成度が高いといえます。

週一回は道樹山をバックに散歩に出かけ、園庭ではバッタやコオロギを採集、ミカンの木から「アゲハチョウの卵」を見つけ成虫に育てたりと、自然からも様々なことを学んでいます。

行事ごとくも少数精鋭で皆が一丸となって取り組みます。運動会のプログラムには園児種目以外に「祖父母」「お父さん」「お母さん」「小学生」など細かく競技を設け、家族全員で参加し盛り上げます。

「子どもたちは、興味があることには本当に一生懸命。ご家庭でも食事の手伝いなど一緒に何かをする時間を作っては。親子で共に過ごしたことを子どもたちは1番嬉しそうに私たちに教えてくれますよ」と、仲野園長は話します。(サ)



「純子ばあちゃんの食の話」～食べることは生きること～

<五感を使う ②>

栄養管理士 小山 純子 (高森台)



第2回は「触る」です。

(1回目の流れでは「においをかぐ」のはず・・・?まあ堅い事無しで)

今年の夏休みも、我が家にはかわいいお客さんがやってきました。

短大の教え子2人が5人の子どもと共に。(ほぼ毎年)

S家の3人は小1になったA君を頭にBちゃん(年中)Cちゃん(年少)。

T家は年中のDちゃんの下に今年デビューのE君(1歳)。

小学校や幼稚園の先生には「パンのせんせーのお家へ行くんだ」と言ってくるそうです。

どの子も「粘土より早くパン種で遊んだ」子どもたち。来る時間に合わせてこねておいたパン種を見つけ大喜びでエプロン姿になり、手もしっかり洗って、分割した種を手際よく丸めてくれます。今年デビューのE君も負けずと丸めているのか?ぐちゃぐちゃにしているのか??

「作った人が持って帰ろう」が原則なので、個性豊かなパンが次々形作られます。

今年は「アンパンマンを作る道具」も登場して、大活躍でした。

そして2次発酵を待つ間には「おにぎり作り」です。各自ラップを持ち、これまた「不揃いのおにぎりたち」が次々出来上がります。きゅうりも好きな大きさに切り、レタスやハムもちぎってお皿に盛りつけ。

今日のメインは一口大にカットした「ローストチキン」。お箸を箸置きにセットして、お皿とコップも自分の分を確保して「いただきます!」

「いつもこんなに食べないのに・・・」と毎年ママたちの同じ声が、今年も聞こえます。自分で作ったご飯、みんなと作ったご飯、おなかいっぱいになるまで食べてくれます。

オープンに入ったパンがどんどん膨れて色が付いてくるのをのぞくのも大事なお仕事。ケンカをしながら大騒ぎです。

食材を触らせる、食べ物が出来る過程を見せる。

忙しい時間帯の事、毎回ではママもパニックかもしれませんが、たまにはこんな時間も必要でしょう。

では実際に「調理に参加させるのは?」・・・今回はそのお話をしてみます。

<プロフィール>

愛知みずほ大学短期大学部非常勤講師(「臨床栄養学各論」「臨床栄養学実習」「栄養指導論Ⅱ」担当)

名古屋学芸大学短期大学部非常勤講師(「調理実習D(製菓・製パン)」担当。“母が子に伝えていきたいおやつ”がコンセプト。)

名古屋大学医学部研究科NAMIS臨床研究事務局スタッフ(心筋梗塞研究スタッフとして「日本循環器学会」にて演目発表。)

Buono

ヴォーノ★野菜とフルーツの
カフェ

ハンディを持つ子どものお母さんたちが、将来を考えてカフェを作りました。一度、遊びに来てください!

高蔵寺町2丁目31-2 青山ビル1F
TEL090-3838-1662



スポーツクラブNAS



スイム・テニス・ダンス・体育・新体操・バレエ・空手

〒487-0011 春日井市中央台2-1-11(アビタ館西側) TEL.92-1718(テニス除く) テニス:92-8107

*NASは、こどもま～ちを応援しています。

「ヒブワクチン」の補助は、来年から？

小児科医 黒柳 まさお（中央台）

ご存知かと思いますが「ヒブワクチン」と「肺炎球菌ワクチン」は、子どもの恐ろしい髄膜炎（昔でいう脳膜炎で、後遺症として脳性マヒや知恵遅れを残す）を防ぐ重要な予防接種であるにも拘らず、公的な補助がなく自費なので、ママにとっては大きな負担となっています。

ところが、名古屋市では23年1月から無料で接種が出来るようになりましたし、非公式ではありますが、来年から、他の市町村でも公費助成がなされる、とのネット情報がありますので、お母さん方は期待して下さい。しかし、ヒブ菌による髄膜炎は0-1歳が圧倒的に多いので、小さいお子さんをお持ちのママは、助成を待たずにヒブワクチンの接種を受けておきましょう。ただ、肺炎球菌による病気は、やや大きめの子どもが罹りやすいので、補助を待ってからワクチンを受けてはどうでしょう。

なお、市町村による公費助成は、これらの2種類のワクチンばかりでなく、子宮頸がん予防のワクチンにも助成される予定ですので、中学・高校生の女子（性に興味を持ち始める頃）をお持ちのお母さん方には、ニュースに注意しておきましょう。

<プロフィール>

小児科専門医、医学博士。名古屋市立大医学部・大学院終了後、豊橋市民病院小児科などを経て愛知県コロニー中央病院に20年間勤務。その間、米国医師免許を取得し、アメリカ・オレゴン州立大学病院小児科で子どもの診療に従事。平成元年、中央台に小児科医院を開業、現在に至る。



乳幼児の冬の防寒対策

助産師 笠岡 直子（中央台）

1月に入りますます寒さが肌に刺すようになってきました。

風邪やインフルエンザが流行する時期です。自分の体調管理に特に気をつけていただきたいと思います。

お母さんの体調が悪かったり疲れていると、赤ちゃんや子どもたちも機嫌が悪くなったり、病気をしやすくなる気がしませんか？

（赤ちゃんは特に、泣くことでしか寒さや暑さを訴えることができません）。

よく風邪をひく赤ちゃんの服装を見ていると、肌着の上にロンパース1枚という事が多いようです。見た目には暖かそうですが、ロンパースのボタンとボタンの間から外気が入ってきたり、赤ちゃんを抱っこした時、服が膝の上までまくれ上がってしまっています。少しゆったりめに作ってあるので、胴周りもブカブカでお腹も冷えやすくなり、風邪をひいてしまいがちですね。

首がすわっていない間は特に、防寒対策としてロンパースを着せることが多いようですが、その上にスパッツをはかせるとか、レッグウォーマーで足首がまくれ上がるのを防ぐことをお勧めします。

首がすわった頃の赤ちゃんには、肌着の上に半袖と長袖のTシャツを重ねて着せたり、ズボンやお腹がきつくないように少し大きめのスパッツをはかせ、基本的には大人と同じような格好で、自分が寒いと感じたら、同じように子どもにも1枚ぐらいベストや上着を羽織らせたり、室温を調節してあげて下さい。

風邪の予防には手洗いやうがいも大切ですが、首、手首、足首を冷やさないことも大切です。今年の冬は親子ともども風邪知らずで元気に過ごしたいものですね。

<プロフィール>

昭和47年から名古屋大学病院で助産師として勤務。退職後は愛知県看護協会理事などの職を歴任後、平成5年に「かさおか母乳・育児相談所」を開所。現在は、母乳相談を中心に認定心理士、思春期相談士として、仲間と共に「性教育」や「命」についての講演活動などを行う。



たぬき先生の‘子どもの虐待を考える’



石田 義忠：京都教育大学教育心理学専攻卒業後、聖母学院教諭、愛知県心身障害者コロニー心理判定員を経て、児童相談所長を歴任。現在、愛知県相談支援アドバイザー、愛知県弥富寮コーディネーター

シリーズ1 その現状と虐待の定義

昭和45年、渋谷駅のコインロッカーから嬰兒の遺体が発見されるという事件が起こりました。以後、類似の事件が発生したこともあって、この頃から専門家の中で子どもの虐待を問題視するようになってきました。アメリカでは、すでに10年前から問題になっていました。評論家の立花隆氏は、「何とも不可解な事件である。子どもたちにとって、受難の時代が始まるのではないか」と予言しました。

厚生労働省は子どもの虐待の統計を平成2年（1,101件）から取り始め、平成21年には、44,210件と、約40倍に急増しています。

子育ては、その国の精神文化であると言えます。子どもの虐待が急増していることは、日本の精神文化が危機に直面していると言えます。このことは大変重要なことです。

初回は、子ども虐待の定義についてお話しします。

子どもの虐待のことを英語では、「チャイルドアブ्यूズ（child abuse）」と言います。アブ्यूズとは、間違った使い方（abnormal use）ですが、この場合、「子どもへの間違った接し方」ということになります。

子どもの虐待は、次の4種類に分類されています。

1. 身体的虐待…子どもに身体的苦痛を与えたり、外傷を加えたりすることです。この場合、体罰との区別が問題になります。
2. 性的虐待…子どもに性的行為をしたり、わいせつ物を見せたりすることです。
3. 育児の怠慢（ネグレクト）…子どもに食事を与えなかったり、病気であるのに医者に見せなかったり、学校へ行かせなかったりすることです。
4. 心理的虐待…子どもの心を傷つけるようなことを言って脅したり、否定的な態度を取ることで。

（次号に続く）

たぬき相談室の出張相談を実施

子どもたちの問題が深刻、複雑になっています。そんな中で、関係者の方々は、日々、子どもたちの教育、保育にご苦労されていることと思います。

さて、たぬき相談室では、関係者の方々のお役に立てばと考え、出張相談を始めました。子どもたちのどんな相談でも結構です。例えば、発達障がい、不登校、多動、乱暴、減黙、おもしろし等、どんな問題でも、お気軽にご相談ください。職員の研修会にも応じます。

1. 相談員 : 石田義忠 たぬき相談室長（元愛知県児童相談所長）
2. 相談日時 : 原則として、毎週火曜日午後
3. 諸経費は必要です。ご相談ください。
4. 予約 : 必要

子どもの世界を広げる会—子ども支援者の学習の場—

児童虐待、いじめ、引きこもり、発達障がい…など、子どもたちの問題が複雑・多様化している反面、家庭や地域の子育て基盤は弱体化しつつあります。そんな中、「子どもたちの問題を語り合う場、情報交換の場、相互学習の場があったら…」との要望を受けての開催です。いろいろな分野の方々のご参加をお待ちしております。

- 日時 : 月2回火曜日 15:45~17:15 (1時間半)
- 場所 : 古民家和っか(春日井市大留町5丁目29-16)
- 内容 : ファシリテーターを囲んで子どもに関する問題を語り合い、情報交換や相互学習の場とする。
- ファシリテーター : 石田義忠氏(たぬき先生の子育て相談室長、心理相談員、元児童相談所長)
- 会費 : 1回500円

*上記の件に関するお問い合わせは、“こどもま〜ち”編集部まで。(TEL0568-52-7315)

地域で支える

子育て支援サロン「きらきらキッズ」

「おはよ～！元気だった？」と、気さくに声をかける子育て支援サロン「きらきらキッズ」（藤山台社協主催）のスタッフ。初めて参加する親子でもすぐに馴染める和やかなサロンです。

毎月 2 回の活動では、利用する親子が互いにふれ合う時間を多く取れるように“親子で自由に遊んだり、母親同士の交流タイム”を 1 時間設け、クリスマス会などの年中行事はもちろん、自宅に帰ってからも親子で楽しめる“親子ふれ合い遊び”など、スキンシップの図れるプログラムを取り入れています。

家では、なかなか見られないスタッフ手作りの布製のプレイマットや手袋人形、木製のおもちゃなどが毎回定位置に配置され、子どもたちは一目散にお気に入りの場所に向かって遊び始めます。年に 2、3 回程ある母親向けの講座では、コンサート鑑賞や救命救急法なども学べ、ママたちにも好評。利用者は「子どもたちも、ここに来ることを楽しみにし、私も息抜きが出来て助かっています」とニコリ。

阿部国枝代表は「毎回 30 組ほどの親子の皆さんが参加してくれ、何よりもスタッフが子どもたちと接することを楽しんでいます。スタッフを含め、幅広い世代の方々が集い、地域の交流の場にもなっていますよ」と話していました。（サ）

きらきらキッズ

- *活動日時：毎月第 2・4 金曜日（10 時～11 時 40 分）
- *活動場所：藤山台 8, 9, 10 丁目町内会集会所
- *参加費：無料
- *主催：藤山台地区社協
- *問い合わせ：91-5222（阿部代表）



先生インタビュー

“高座小学校 町野 良弘先生”



教師を志したのは、社会人になってから始めた地域の子どもたちへのボランティア活動で子どもに接することの楽しさを感じるようになったからということでした。悩んだ末、一大決心し会社を退職し、夢を実現して小学校の教師になりました。

理想のようにいかないことも多いけれど、初心を忘れないように心がけているそうです。

町野先生は毎日教室で一人一人に「おはよう」「できたか?」「どうした?」など多くの言葉をかけるようにし、ホッとする、落ち着いた生活ができるクラスを目指し、常に子どもと真剣に向き合うことで信頼関係を築き、困っている時に相談できる雰囲気作りを心がけていると話しておられました。

自分で努力し考えられる子供に育てて欲しいと思い日々教壇に立ってみえます。（文）

活動紹介

“自然と共生 森のようちえん ねっこぼっこ”

「ねっこぼっこ」は園舎を持たない“青空保育のようちえん”。2004 年秋設立、“ドイツの森の幼稚園”をお手本に春日井周辺地域で活動。年少から年長 15 名の園児を織田敦子さんを中心とするスタッフと保護者 3～4 名が交代で保育にあたっています。

子どもたちは、集合場所に集まると早速、保護者と別れて元気に森の中に移動。朝の会の後は今日の活動を話し合い、自然の中でゆったり、のびのび、たっぷり遊びます。スタッフは安全面を配慮し、子どもたちには野外での危険を事前に教えています。葉っぱ、木の枝、石などをおもちゃにし、雨の日は東屋のある場所で過ごしています。

織田さんは、「生まれ持った一人一人の個性を大事に見守り、自然と人が共に、共生することが当たり前である環境であること、子どもたちが自然を守る人たちに育てて欲しい」と願います。

子どもの個性を尊重し、大人が温かく見守る姿勢に共感する園児のお母さんは「子どもの想像力や見つけ出す力を養えるところで身体を使って遊んで欲しい。」「子どもが子どもらしくいられて、健康になりました」と話します。ひなたぼっこのような温かさの中で、“人間の根っこを育てているようちえん”です。（文）



つながる つながる



そうさんクラブ（押沢台）



「そうさんクラブ」は、原則月に2～3回（木曜日 10時～11時）に押沢公園集会所で開いている子育てサークルです。現在、親子 16組 33人が在籍しています。工作やミニ運動会、時にはグリーンピアに集合して外遊びもします。

ママたちが集まり、会費を出し合って“自主運営”を始めてから20年以上。今でも、自分たちで知恵を出し合い、協力し合う姿勢は引き継がれています。その中には、第3子の心平くん、第4子の亜季ちゃんと通う林有紀さんのように、今年で11年目になるベテランママもいます。

今年度会長を務める仲渡真理子さんは、「全てを一人で決めてしまうのではなく、みんなで相談しながらやっていく。」ことと「まず子どもが楽しめるように、そして親にも負担にならないようにする。」ことを心がけているそうです。

その言葉通り、参加者みんなが少しずつ力を出し合っている雰囲気随所に感じられ、そんなママたちの思いの中で子どもたちは楽しそうに遊んでいます。（浅）

（＊そうさんクラブへのお問い合わせは、こどもま～ち編集部まで。）

まちのお知らせ

密蔵院（熊野町） 田村圓心（たむらえんしん） 住職 出張セミナー

豪快な笑い声とその風貌から皆に親しまれている圓心住職。サラリーマン経験や、FMラジオ局にもレギュラー出演するなど気さくで、気負わず世間話ができる和尚と評判。幼稚園、小学校の「ふれあい教育セミナー」などでも、要望に応じ多彩なテーマで講演会いたします。お気軽にご相談下さい。

春日井市熊野町3133番地 Tel：(0568) 83-2610

発達障がいとその支援（成人期から高齢期）—関係者と家族のための研修会—

成人期・高齢期の発達障がい者のさまざまな課題について考えます。（・学校卒業と進路・障がい者と結婚・成人期高機能自閉症、アスペルガー障がい・高齢化に向けて…など）

日時：平成23年2月26日（土）13:30～3時間程度

場所：春日井市総合福祉センター 小ホール（春日井市浅山町1-2-61）

講師：石田義忠氏（元児童相談室長）

参加料：無料（ただし資料代300円必要）

予約先：まちのエキスパネット事務局（tel 0568-52-7315）

<編集後記> 何とか第2号が出来上がりそうで、ホッとしています。いろいろと初めてのことも多く、何かを作り上げるのはなんと大変なことか…と身に染みて感じています。作る側になってみて、今まで何気なく見ていた新聞・雑誌はもちろん、広告1枚でさえ見る目が変わりました。立場を変えてみるというのは、良い経験になります。（浅）

* NPO法人まちのエキスパネット：高蔵寺ニュータウンとその周辺の活性化を目指して活動中。子育て支援、障がいのある子どもたちの環境を明るくしていきたいと願う。目指すは「インクルージョン=共生」支えあう地域です。

* NPO法人チームK・O・Z：少子高齢化・人口減少が著しいニュータウンを、チームK・O・Zの強みである不動産知識などを活かし、多世代が住みやすい元気な“まちづくり”を目指します。

* こどもま～ちは、NPO法人まちのエキスパネットとNPO法人チームK・O・Zが協働で取り組んでいる事業です。

* こどもま～ちは、子育てとまちづくりの支援活動をおこなっています。活動にご賛同いただける個人・団体を募集しています。一口1,000円からお願いします。

《発行元》子どもとまち支援センター（NPO法人まちのエキスパネット内）

（住所）春日井市大留町5丁目29-16

（TEL・FAX）0568-52-7315

（Mail）expanet@angel.odn.ne.jp

（寄付金振込先）三菱東京UFJ銀行 高蔵寺支店 普通預金 4696212

特定非営利活動法人 まちのエキスパネット 理事 治郎丸慶子